

有明教育芸術短期大学紀要

第 11 卷

目 次

子ども教育学科

<原著論文>

保育所（園）における与薬対応マニュアル作成に向けた枠組みの作成とヒューマンエラーの検討…………… 岩本圭子 3

日本型「短期高等教育」の展開と蹉跌
—公立短期大学の消長・変遷過程を中心に—…………… 木田竜太郎 13

小学校の「総合的な学習の時間」における教材活用の研究
～パネルシアター教材の可能性について～…………… 田中正代 25

ダンスステップの発生過程に関する一考察
～ギャロップからスキップへの移行～…………… 久保景子 豊田泰代 太田昌秀 35

<実践研究>

保育内容「表現Ⅰ」における学生の学びと今後の課題について…………… 山田麻美子 49

I C T活用技術を備えた保育者の養成に向けて
—保育内容「人間関係」における授業実践—…………… 赤坂澄香 59

小学校の授業実践を学生とともに追試する
—「生活科指導法」の授業事例から—…………… 山崎早苗 69

<研究ノート>

「生活綴方」教育と紙芝居の関連についての一考察
—国分一太郎の実践活動に焦点をあてて—…………… 三澤裕見子 81

The Bulletin, Ariake College of Education and the Arts

Vol. 11

CONTENTS

Course of Childhood Education

< Original Articles >

- Study on Trial of the manual to give the medicine in the nursery school :
Focusing on investigation human error and making of the outline
.....Keiko Iwamoto 3
- History of Public Junior Colleges in Japan Ryotaro Kida 13
- Study on teaching materials inflection in “the Period for Integrated Study”
of the primary school ~ Possibility of Panel theater teaching method ~
..... Masayo Tanaka 25
- A Study on the Process of the dance step ~ Moving from gallop to skip ~
.....Keiko Kubo Yasuyo Toyota Masahide Ohta 35
- #### < Action Research >
- About student’s learning in a nursing detail “expression I” and future’s problem
..... Mamiko Yamada 49
- Research on the development of ability to use ICT in the nursery teacher training course
— Content of Child care : Practical Attempt in the field “Human relations”—
..... Sumika Akasaka 59
- Retesting the elementary school class practice with students
— From the case studies of The method of living Environment Studies —
..... Sanae Yamazaki 69
- #### < Research Note >
- A study on the relationship between the “Life-style Spelling” education and
picture-story show — Focusing on Ichitaro Kokubun’s practical activities —
..... Yumiko Misawa 81

子ども教育学科

執筆・投稿要領

本学紀要の執筆・投稿に関する要領については以下の通りとする。

1. 論文は、執筆者自身によるオリジナルな学術研究に基づく未発表のものとする。
2. 執筆は1人1編とする。ただし、共著論文の第2執筆者以降の場合にはこの限りではない。
3. 原則として、共著論文の場合は文責（役割）を明記する。
4. 二重投稿は禁ずる。
5. 論文の種類は、「原著論文」、「実践研究」、「事例研究」、「資料」、「調査報告」等とする。
 - (1) 原著論文：当該研究分野において、独創的な研究結果、新規な方法・結果で信頼性が認められ、学問、教育の発展に役立つ内容を明瞭に記述したもの、理論、実験などに関して、学術的な研究成果を理論的にまとめたもの。
 - (2) 実践研究：教育や芸術の分野において実践内容を記録したもの。
 - (3) 事例研究：当該研究分野の、ある個人や団体の事例について、経過を綴り追跡研究した結果をまとめたもの。
 - (4) 資料：学術的、芸術的に参考となる、新しいデータをまとめたもの、学術的、芸術的に価値のあるものの紹介。
 - (5) 調査報告：当該研究分野に関する実践、新しい試み、あるいは教育システム開発などにおいて得られる新しい成果に関する調査報告。
 - (6) その他：ある研究に関する部分的報告である「研究ノート」、芸術作品の提示に関する「作品」、当該研究分野に価値のある学術的、芸術的な内容を紹介し、その内容に対する評価を述べる「書評」など。
6. 論文の構成
論文の構成は次のとおりとする。
 - (1) 表題（和文及び英文）
 - (2) 著者名（和文及び英文）
 - (3) 所属機関（和文及び英文）
 - (4) 要旨（和文400字以内、又は英文200ワード以内とし、本文と同言語）
 - (5) キーワード（5語以内、本文と同言語）
 - (6) 本文（和文又は英文）
 - (7) 注・参考文献・引用文献
7. 論文の書き方
 - (1) 論文の長さ：400字詰め原稿用紙に換算して40枚（和文16,000字、英文8,000語）以内とし、図、表、写真もこれに含める。その範囲を超える場合には執筆者の実費負担とする。
 - (2) 論文は、ワードプロセッサによって作成し、手書き原稿は原則として認めない。
 - (3) 使用言語：和文又は英文とする。
 - (4) 書式：原則として横書きとする。印字の大きさは10.5ポイントとし、A4判用紙（36行×40字）とする。なお、数字は半角とする。
 - (5) 見出し：原則として次に掲げるポイントシステムとする。
(章) I. II. III.
(節) 1. 2. 3.
(1) (2) (3)
 - (6) 図（写真を含む）及び表：通し番号（図1、表1、写真1）およびタイトル等を付けること。
 - (7) 文献の記載及び注のつけ方：文献の記載順序は著者のアルファベット順を、記載方法は以下の例を原則とする。また注は全て論文末注とする。
 - ①和文学会誌、和文雑誌の場合
記載例
寺西立年1977「聴覚系での識別臨界速度と情報処理能力」『日本音響学会誌』33（3）
pp136-143
論文タイトルは一重カギ「」で、また掲載誌名は袋カギ『』で表記し、著者名 発表年

論文タイトル 雑誌名 巻(号) 頁(pp)の順に記載すること。

②和文書籍の場合

記載例

安藤由典1996『楽器の音響学』音楽之友社

著者名 出版年『著書名』出版社名の順とすること。

③英語、欧語の場合

記載例

Buchthal, F. 1966 Evoked action potentials and conduction velocity in humane sensory nerve. Brain Res., 3, pp1-27

Fitzgerald, J., Gottscalk, P. and Moffitt, R. 1998 An analysis of sample attrition in panel data, The Michigan panel study of income dynamics. Journal of Human Resources, 33, pp251-299

- ・印欧語以外のものは、著者名、論文名、書籍雑誌名、発行所(出版社等)、発行年(月日)の順をそろえ、原語で表記のこと。印欧語以外の言語に関してはオリジナルの文字版下を提出すること。
- ・アルファベット表記の際、文頭と固有名詞のみ大文字にすること。
- ・著者名(苗字、名前、いずれも立体)、発行年、論文名(立体)、ついで雑誌名または書籍名(いずれもイタリック体)、録ページの順に記載すること。
- ・書籍がA氏の編著であり、そこに論文が収録されている場合は、論文名の後にin A, ed. 書名、pp90-102とする。編著者が複数の場合はin A and B eds.と記載すること。

8. 投稿手続き

- (1) 投稿を希望する者は、所定の申込用紙に必要事項を記入の上、期限内に委員会に申し込むものとする。
- (2) 執筆を認められた者は、執筆・投稿要領に基づいて作成された印字原稿2部および記憶媒体を期限内に委員会に提出するものとする。なお前者を正とし、後者を副とする。

9. 校正

- (1) 校正は執筆者の責任において行い、再校までとする。
- (2) 校正に当たって、ミスプリント以外の大幅な修正は認めない。
- (3) 校正は赤字で明示するものとする。
- (4) 初校の期間は14日以内、再校のそれは7日以内とする。

10. 別刷

- (1) 別刷は1論文につき30部まで無料とする。
- (2) 30部を超える部数については、その費用を執筆者の負担とする。

11. 返却

印字原稿および論文記憶媒体は、紀要完成後に著者に返却する。

12. 著作権許諾処理

論文中に写真、図像、楽譜等の掲載をする場合は、あらかじめ著作権者に掲載の許可を書面で得ることとする。

転載をする場合は、出典を明記すること。

第11巻	令和2年3月20日印刷	編集	有明教育芸術短期大学 学術情報委員会
	令和2年3月20日発行		三澤 裕見子 〈委員長〉
発行	有明教育芸術短期大学		杵鞭 広美
	〒135-0063 東京都江東区有明 2-9-2		赤坂 澄香
	TEL : 03-5579-6211 FAX : 03-5579-6212		足立 真利 〈庶務〉
	URL : http://www.ariake.ac.jp/	印刷	株式会社松本文信堂